

한국 경제신문

〈제 3 종우편물(가) 급인가〉

世紀의 大役事… 아시아共榮의 징검다리

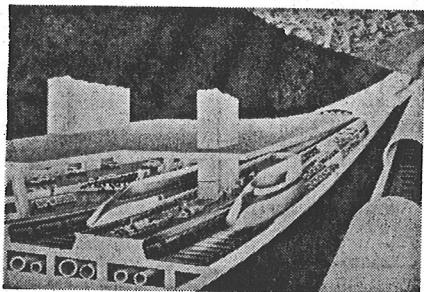
韓日「海底隧道」構想

『현해단을 넘나드는 해저터널을 짓는다』는 韓國과 日本人 사이에 해저터널을 건설하기 위한 세기인 프로젝트가 美國 학자들이 사이에 구상되고 있어 눈길을 끌고 있다. 이같은 구상은 『吳越』의 美國이 주도, 아시아권을 하루나로 묶는 징검다리로 건설함으로써 아시아의 광운송대를 앞당기려는 원대한 계획에서 협의되고 있는 것.

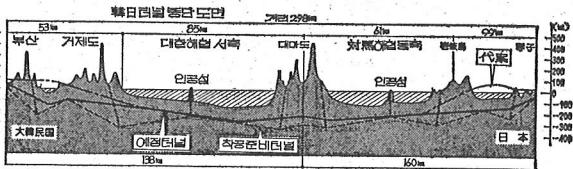
五
題
語

日 선 이미 對馬島까지 地質조사 끝내

【올해안】路線 확정 계획



구상되고 있는 터널내부모형도.



工費 8兆원 추산…人工섬 2개
韓國 측선 3월에 研究委 설치

○ トトロの「魔女の宅急便」が、日本を代表するアニメーションとして世界に名を馳せた。その原作小説は、1986年に発表された。著者は、吉野里えり（よしのさとえり）である。吉野里えりは、1950年、福岡県北九州市生まれ。小学校時代から、絵を描くのが好きで、絵本や絵画の制作で、多くの賞を受ける。1970年、福岡市立美術館で開催された「世界の絵本展」で、『魔女の宅急便』の原案となる「魔女宅急便」の絵を描いた。この絵が、吉野里の人生を大きく変えるきっかけとなる。1978年、『魔女の宅急便』が、児童文学雑誌「アサヒ少女」に連続で掲載される。これが、吉野里のデビュー作となる。その後、『魔女の宅急便』は、児童文学大賞を受賞するなど、多くの賞を受ける。また、『魔女の宅急便』は、映画化され、世界中で大きな成功を収める。吉野里えりは、現在も、絵本や小説の創作活動を行っている。

訳 文

韓国経済新聞 1986年1月12日

世 紀 の 大 役 事

ア ジ ア 共 栄 の 飛 び 石 の 橋

韓日「海底トンネル」構想

総延長298km 工期おおよそ15年

「玄界灘を出入する海底トンネルをくりぬこう」韓国と日本の間に海底トンネルを建設するために、世紀的なプロジェクトが両国の学者達の間に構想され、視線が向けられている。このような構想は韓日両国が主導、アジア圏を一つに結ぶ飛び石の橋を建設することによってアジアの共存時代を繰りあげる遠大な計画から協議されている。

日本で既に対馬島まで地質調査終了
 今 年 中 路 線 確 定 計 画
 工費8兆ウォン推算—人工島2個
 韓 国 側 で は 3 月 に 研 究 委 設 置

(本文)

構想中のこのトンネルは、これから南北が統一されれば、平壌を経由して中国・蒙古・パキスタン・中東までのシルクロードを過ぎて、地中海の下を通過しヨーロッパまで至る国際ハイウェイを建設する。その出発点を韓国と日本によってする事になっている。

この遠大な計画を実現するため日々的な調査活動を始めている張本人は、日本青函海底トンネル建設主役人、佐々保雄、韓日トンネル研究会会長（北海道大学名誉教授）。純粹民間団体の韓日トンネル研究会は去る82年に結成され、日本側はすでに各都市・支部を置き百余名の学者と専門家が動員され、日本九州前面海から対馬島までの地質調査を完了し、毎月、研究報告会も開いている。また、50億円を要して既に実施された九州から対馬島までの地質及び基礎探査資料を土台として、設計作業を始めているところだ。

韓国側では、鄭 昌熙ソウル大学地質学科教授等、関係教授達がソウルと日本九州で開かれた韓日トンネル研究会シンポジウムに招請を受け意見を交換した。

この研究会が計画している韓日海底トンネルは、釜山から巨濟島を経由して対馬島を過ぎ日本の福岡～壱岐島～九州に至る延長298km。巨濟島から対馬島まで85kmと対島島から壱岐島61kmは海底トンネル、壱岐島から福岡間54kmは海底トンネル及び連陸橋、福岡から九州まで45kmは陸路として建設するということ

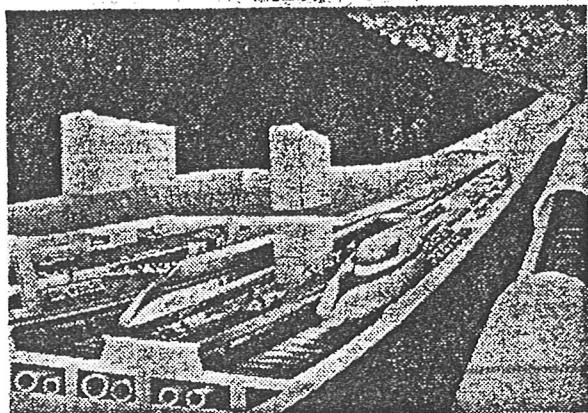
だ。海底トンネルの我が国の出発地の巨濟島内 8 km は陸、残った釜山までの 45 km は海底トンネルと連陸路も計画されている。これら釜山から九州までの路線は 25 8 km から 298 km に至る 5 つの案を準備しているが、このなかで九州から対馬島までの路線は今年中に確定する計画だ。

また、この海底トンネルの支持と換気のために巨濟島と対馬島の間、対馬島と壱岐島の間に人工島一ヶ所ずつをつくり、両国の境界地点では税関施設を設置する計画だ。この海底トンネルの構造は、2 階建になっているが、上の階では高速道路が、下の階では高速電鉄路線が各々計画されている。

この事業が確定され着工されたとしても、工期はおよそ 15 年かかると見ているし、総工事費も約 8 兆ウォンに達するものと推算している。

日本側では、具体的な地質・地形調査と海底物理探査がほとんど終る段階に来ているが、我が国側では、議員会も結成されてない実情だ。これに従って韓国側も議員会構成のための具体的な人選作業をすぐ終って、遅くとも来たる 3 月までは、韓日トンネル研究会〇〇議員会を結成、すぐにも釜山と巨濟島近海に対する海底地質調査を始める計画である。

しかし膨大な事業計画とは別に両国政府間ではこれに対する公式的な意見交換が成し遂げられてなく、近い日時にこの計画が実現されるようではない。しかし国家次元ではない民間次元で両国間の交流増進のため、べらぼうな海底トンネル建設設計画が推進されていることは意味があることではなかろうか。（鄭記者）



構想されているトンネル内部模型図



昨年末、ホテルロッテで開かれた韓日トンネル研究会シンポジウムを通して両国学者達が海底トンネル建設に